こうはんせいはったつしょうがい

広汎性発達障がいとは

～はじめのいっぽ～

Ver. 2.03

目　　次

１．広汎性発達障がいとは …… ２

２．基本的な対処のルール …… 11

３．学校との連携 …… 15

４．こんな時どうしよう！？ …… 17

１．広汎性発達障がいとは

広汎性発達障がいは、**脳の発達のかたより**を原因とするもので１００人に５人（５％）程度の確率で生じます。そのために大多数の人と**物事のとらえ方に違い**が生じやすくなります。

人間にはそれぞれ得意不得意がありますが、広汎性発達障がいの人達は、その**得意不得意に特徴**があり、社会の常識・ルールなど当たり前に思われている事がピンとこなかったり、**戸惑い**や**不安**を感じたりする事があります。その一方で、何事もきちんとやろうとする**真面目さ**もあります。

このような広汎性発達障がいの特徴を**理解し**、彼ら生活を**サポートする**ための方法がこの「はじめのいっぽ」には書かれています。

広汎性発達障がいは、大きく分けて３つの特徴があります。

①社会性の問題

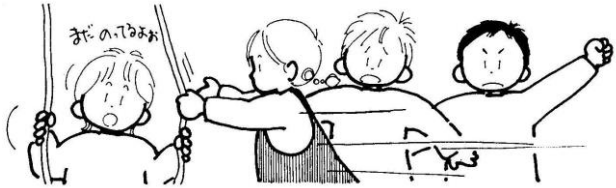
☆人との関わりの場でふさわしい行動を取ることが困難なので、集団の中で浮いてしまいがちです。そのため、本人も自信をなくしたり、ストレスをためてしまうことがあります。

■ その場の雰囲気をよむのが苦手で、

人との関わり方が一方的になりやすい

■ 相手の気持ちを察するのが苦手

■ うまく友達とかかわれない
（特に同世代の子と）



②コミュニケーションの問題

☆ことばや身振り手振りによるコミュニケーションが苦手なため、
会話などで戸惑ってしまうことがあります。

■相手のことばの意味を
うまく理解できない時がある

■ 相手の表情や身振り手振りなど
ニュアンスが読み取りにくい

■自分の気持ちをことばで表現するのが苦手

③想像力の問題

☆目の前にないことを想像したり、急な変化に対応したりするなど柔軟な思考や行動が苦手なために、その場の状況に合わせた考えや動きをするのに苦労してしまうことがあります。

■ 変化が苦手で見通しが立たないと不安になる

■ 気持ちや考えをリセットするのが苦手

■ 思い込みやこだわりが強い

● その他に以下のような特徴が見られる場合もあります。

・<u>落ち着きのなさの問題</u>

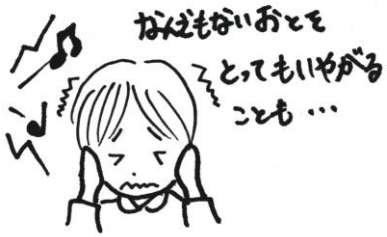
不注意や多動、衝動性が目立つ。

・<u>身体の使い方の問題</u>

運動や工作など
身体を用いる行動の不器用さがみられる。

・<u>感覚のかたよりの問題</u>

感覚が過敏だったり、鈍感だったりする。



● 一方で、次のような良い所が見られる場合もあります。

・まじめである

・ひとつのことをねばり強く行える

・身についていることはきちんと取り組める

・独創的な考えを思いつく

・考えに表裏がない

【特性からみる３つのタイプ】

☆ 広汎性発達障がいは、個々の特性の表れ方の違いにより、大きく分けて３つのタイプに区別されます。

積　極　型

- わがままな子と思われがち
- 誰にでも積極的に話す
- 場違いなことでも
  どんどん話してしまう

受け身型

- おとなしく従順な子だといわれる
- 誘われれば交流する
- 指示には従えるが
  理解できていないことが多い

孤　立　型

- 愛想のない子だといわれる
- 一人遊びに没頭し、グループ遊びが苦手
- 周りの呼びかけに反応しにくい

※上記のタイプは、年齢や発達に伴い変化することがあります。

【自閉症スペクトラムという考え方】

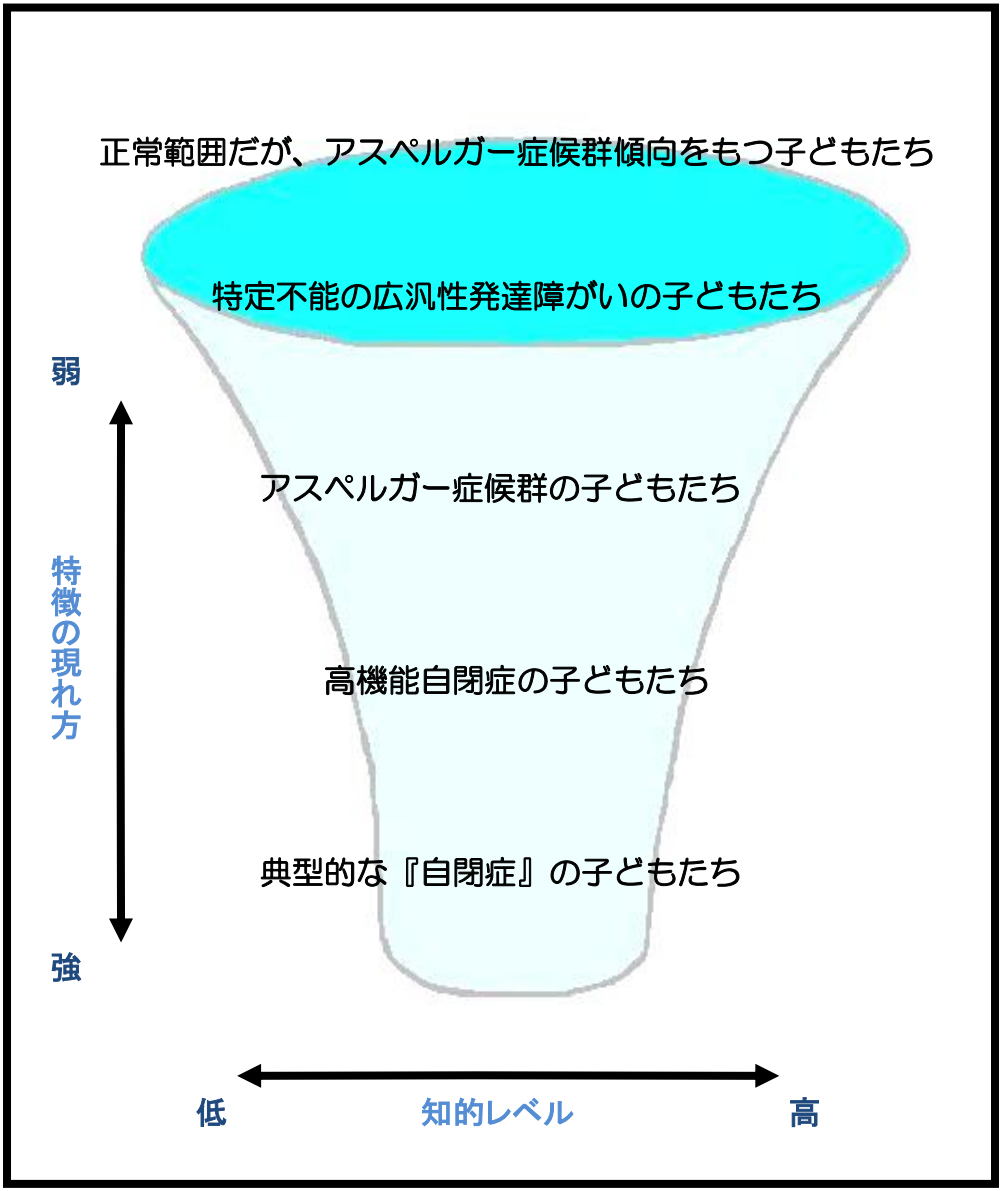
広汎性発達障がいはここからが障がいであると、**はっきり線引きできるものではありません**。このような**連続性**を強調して、広汎性発達障がいは**自閉症スペクトラム**(※)とも呼ばれます。

同じ自閉症スペクトラムでも特徴の**現れ方に強い弱いなどの違い**が見られます。同じ人でも、ある特徴は認められるけれども、別の特徴はあまり目立たないということもあります。

そのため、**アスペルガー症候群**と呼ばれる人たちもいれば、**自閉症**と呼ばれる人たちもいます。中には同じような特徴を抱えながら**普通に社会生活を送っている人達もいます**。それらも含めて広汎性発達障がい（自閉症スペクトラム）と呼ぶのです。

※スペクトラム…虹の色のように、明確に境界線をつけることができない連続体。

☆自閉症スペクトラムのイメージ図



2. 基本的な対処のルール

広汎性発達障がいの場合、**とらえ方にかたより**が生じやすいので、あいまいな表現や態度を理解するのが困難になりがちです。

怒られた時なども内容をうまく理解できず、逆に**不安をつのらせたり、自信を喪失してしまったり**します。

わかりにくい表現をやめて、**はっきりとしたことを伝えてあげる**ことが、子どもの自信や積極性を高めます。

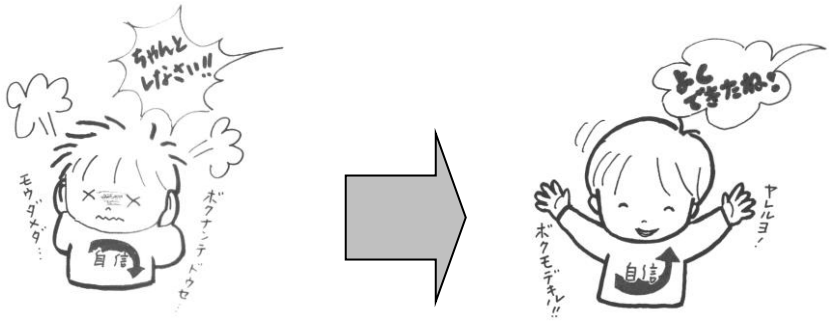
基本的な対処のルールとして・・・

① まず落ち着いて感情的に怒らない

② 指示は具体的に一つ一つ順番に

③ 見通しを立ててあげましょう（視覚化）

④ ほめることで
　　意欲や自信をつけさせましょう

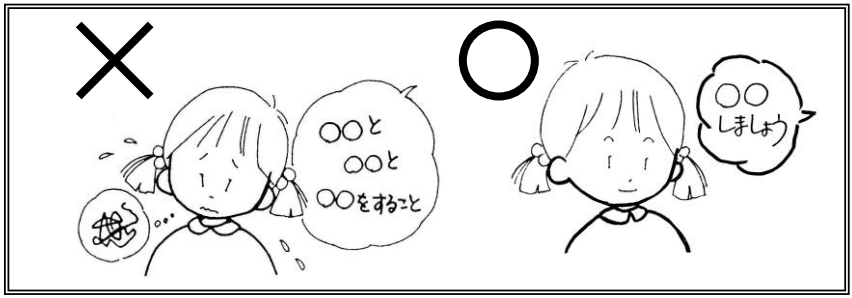


①まず落ち着いて感情的に怒らない

②指示は具体的に一つ一つ順番に

・あいまいな言葉を具体的にしてみる

・いくつも同時に言わないで、一つ一つにする



③見通しを立ててあげましょう（視覚化）

・目に見える形で示す

・予定表を作る

④ほめることで意欲や自信をつけさせましょう

- がんばろうとしている意欲を認めましょう
- できたことをほめ、自信につなげましょう

☆パニックになってしまったら・・・

- まず、安心させてあげよう
- 刺激の少ない環境にうつしてあげよう
  （例：別の場所に移動させる）
- パニックがおさまってから話をしよう

３．学校との連携

子どもたちは生活時間の半分を学校で過ごしています。学校で安心して過ごせることはとても大切です。子どもが安心した学校生活を送るためには、先生方の協力が不可欠です。

①　学校に連絡をとってみよう

担任の先生に限らないで、自分の考えや思いを伝えやすい先生にまず話してみましょう。

もし、うまく伝えることが困難なときには、クリニックを通して学校の方へ連絡することも可能です。

②　先生と一緒になって考えてみよう

勉強面や生活面の困りごとを相談してみたり、学校での子どもの様子を聞いたりして、子どもが学びやすく、過ごしやすい環境をつくる方法を家庭と学校が一緒になって考えていきましょう。

ご両親の承諾があれば、学校の先生に来院していただき、医師から直接お話をさせていただくこともできます。

ひとくちMEMO

小学校の場合、広汎性発達障がいの子どもは特別支援教育の対象になります。

特別支援教育とは、個々の子どものニーズに合わせた対応を実施しようとする教育です。

各学校には広汎性発達障がいに詳しい特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰという先生がいます。どの先生か分からなかったり、不安な場合には、まず話しやすい先生に相談しましょう。保健の先生や生徒指導の先生も相談にのってくれると思います。

担任の先生だけでなく、学校全体で子どもを受け入れる体制が整えられています。

4．こんな時どうしよう！？

⇒ シートを使ってまとめてみよう！

●具体的な対応を考えるために、どこがどのように困っているのか、まず子どもの様子を確認しよう。

例

行動分析シート

記入日：○ 年 △ 月 × 日

名前 ： ○○○○（ 9 歳） 学年 ： 3 年生

ある特定の（問題）行動が、どうして起きてしまっているのかを分析します。この分析により得られた理解をもとに、より望ましい行動へ変化させるためのルール作りを目指します。子どもの気になる行動を思い出しながら書き込んでみてください。
※全てを埋める必要はありません。

①行動について

どんな行動か？	叫びながら 教室を 飛び出す
いつ起きたか？	算数の 授業中
どこで起きたか？	学校の 教室
誰と？	クラスメイト と 担任の 先生がいる時
直前の様子は？	応用問題のプリントをやっていた

②行動の時期と頻度

その行動はいつ頃から見られるようになったか	学年が変わった 今年の4月頃から
その行動はどのぐらいの頻度でみられるか	週に 1．2 回

③対応と結果

その行動が出た時に周囲はどのように対応（回避）していたか	◦ 担任が 追いかけた ◦ 教室に 連れ戻そうとした
対応（回避）により生じた結果は？	◦ 本人は 逃げようとして 余計 パニックになった ◦ 授業に 出られなかった ◦ 他の教科でも 落ち着きのなさが 見られ始めた

④望まれる行動

どんな行動が望まれるか	◦ 飛び出さずに 教室にいられるようにすること

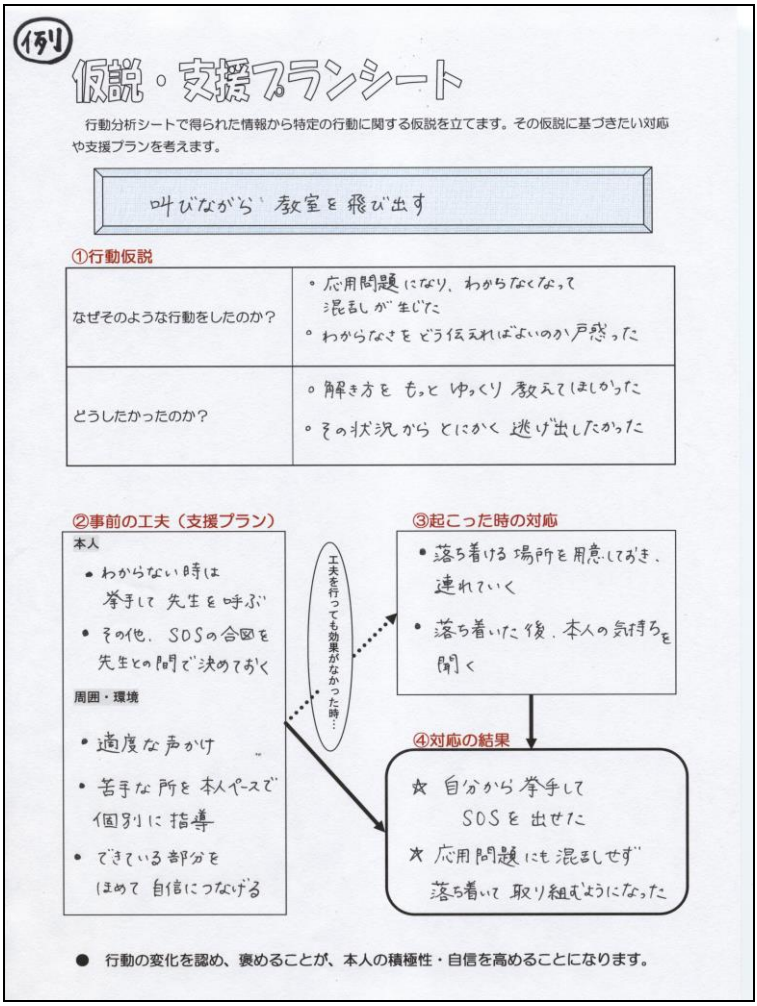
ステップ①
その時の状況をまとめてみよう。

ステップ②
いつ頃からか振り返ってみよう。

ステップ③
その時した対応についてかいてみよう。

ステップ④
どうなるとよいか考えてみよう。

●次に、分析シートをもとに支援の方法を考えよう。



例

仮説・支援プランシート

行動分析シートで得られた情報から特定の行動に関する仮説を立てます。その仮説に基づきたい対応や支援プランを考えます。

叫びながら、教室を飛び出す

①行動仮説

なぜそのような行動をしたのか？	・応用問題になり、わからなくなって混乱が生じた ・わからなさをどう伝えればよいのか戸惑った
どうしたかったのか？	・解き方をもっとゆっくり教えてほしかった ・その状況からとにかく逃げ出したかった

②事前の工夫（支援プラン）

本人
- わからない時は挙手して先生を呼ぶ
- その他、SOSの合図を先生との間で決めておく

周囲・環境
- 適度な声かけ
- 苦手な所を本人ペースで個別に指導
- できている部分をほめて自信につなげる

工夫を行っても効果がなかった時…

③起こった時の対応
- 落ち着ける場所を用意しておき、連れていく
- 落ち着いた後、本人の気持ちを聞く

④対応の結果
☆ 自分から挙手してSOSを出せた
☆ 応用問題にも混乱せず落ち着いて取り組むようになった

● 行動の変化を認め、褒めることが、本人の積極性・自信を高めることになります。

ステップ①
分析シートから原因を考えてみよう。

ステップ②
事前の工夫をまとめてみよう。

ステップ③
起こった時の対応を考えておこう。

ステップ④
対応した時の結果を振り返ってみよう。

おすすめの本

●アスペルガー症候群（高機能自閉症）の
すべてがわかる本＜講談社＞

●こんなとき、どうする？
発達障害のある子への支援①～④＜ミネルヴァ書房＞

① 幼稚園・保育園

②小学校

③中学校以降

④ワークブック

●子どもの発達障害と情緒障害＜講談社＞

●これからの通院に関して

お子さんの状態に応じて通院の間隔は異なります。大きな問題が感じられない時でも、定期的に（1ヶ月に1回、長いお休みの時など）に来院して、様子を教えていただければと思います。

困りごとやわからないことはお気軽にご相談下さい。

かみやメンタルクリニック
☎：0532－34－1411